

国際協力ボランティア活動を通じた SDGs 教育・法学教育の実践

研究員

佐佐紀仁（法学部法律学科准教授）

富田育磨（北タイ・アグロフォレストリー・センター）



しあわせ研究費の助成を得て、国際協力ボランティア活動を軸とした教育プログラムの構築に向けた取組を進めております。

参加者は、タイ北部のチェンマイから車で 3 時間ほどの、山岳民族「スゴー・カレン」が居住する山村に滞在します。水道、道路、電気等のインフラ整備が課題となっている当地で、参加者は現地の方々と共に様々な活動（簡易的な水道設備等の建設、養蜂設備の導入等）に取り組みます。タイ国内での活動については、現地 NGO の北タイ・アグロフォレストリー・センター (AFC) およびタイ王国立メージョー大学から多大なご協力、支援をいただきました。

2024 年度内に 2 度実施した試行プログラムには、本学法律学科、グローバルコミュニケーション学科から延べ 11 名の学生が参加しました。山村での生活環境は、日本やタイの都市部と大きく異なりますが、学生達は自分達の「常識」に拘泥せず、現地の生活や文化を受け入れ、楽しんでいました。

また、時に学生達は、立ち止まり、悩むこともありました。参加者が思いを巡らせた主題の一部には次のようなものがあります。少数民族のようなマイノリティを取り巻く

社会情勢、ボランティアの意義、持続可能な社会はいかにして可能か、国境・国籍とは何か…。

タマリンドの木陰で、あるいは満天の星空の下で、学生達が自らの言葉で語り合う場には、「響き合い、高め合うスパイラル」が生まれていました。参加者が体験を通じて見つけ出した「問い」は、それぞれの人生の歩みを方向づけ、鼓舞する道標になるものと思います。

学外学修推進センターをはじめとする関係部署および関係各位のお力添えを得て、2025 年度には新しい発展 FS が動き出す見込みです。少しばかり手強い科目になるかもしれませんが、もし周りにご関心をお持ちの学生さんがいらっしゃいましたら、そっと背中を押していただければ、大変幸いに存じます。



@AFC_NGO_2025



上段左：簡易水道設備の要、貯水タンクの建設作業
上段右：防火帯作成作業時の集合写真
下段左：活動の様子を Instagram (QR コード) で公開中
下段右：AFC の代表者・富田氏によるご著作